

経営比較分析表（令和2年度決算）

大阪府 和泉市

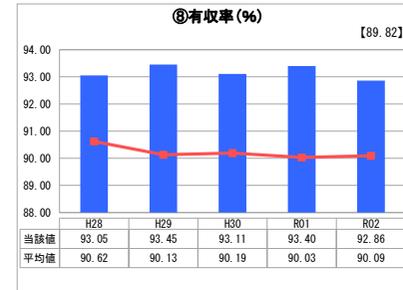
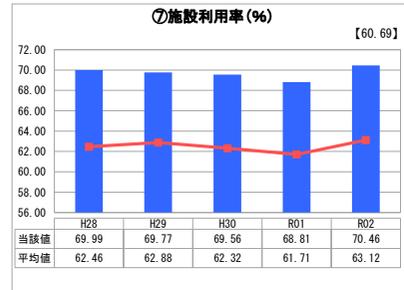
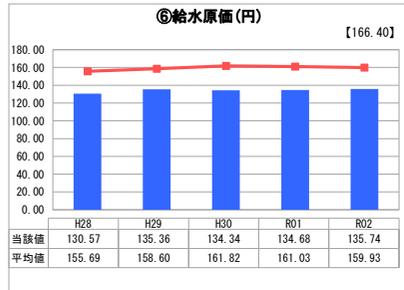
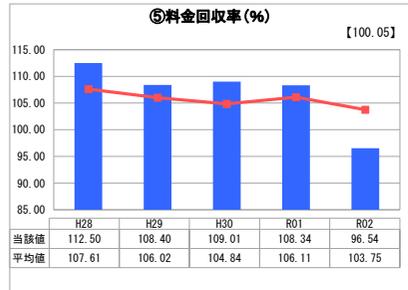
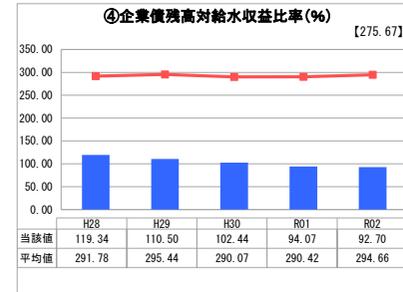
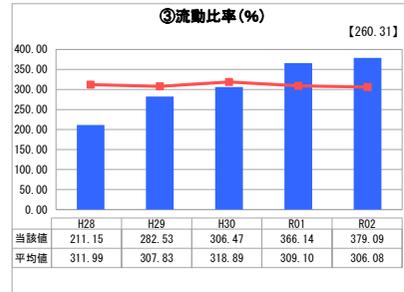
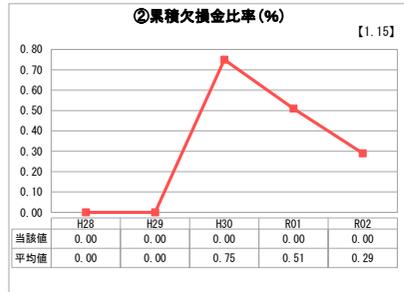
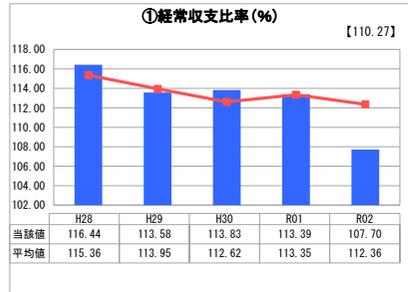
業務名	業種名	事業名	類似団地区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20㎡当たり家庭料金(円)	
-	88.36	98.66	2,574	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
185,181	84.98	2,179.11
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
182,332	70.92	2,570.95

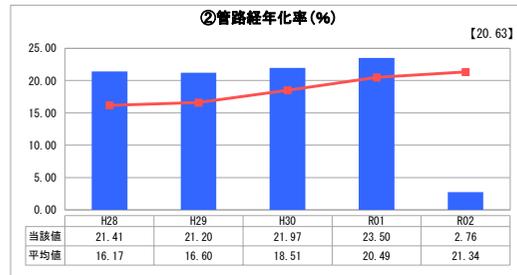
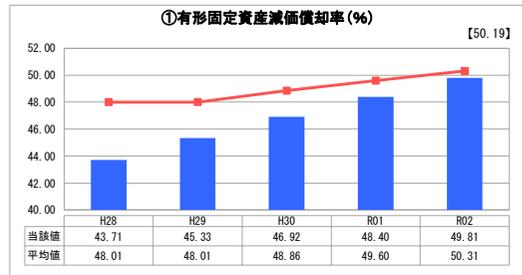
グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率は、新型コロナ対策で基本料金を減額した影響で経常収益が減少したことにより類似団体平均値（以下、平均値）を下回ったが、単年度の収支が黒字であることを示す100%以上となっています。

② 累積欠損比率は、累積欠損金が発生していないため、計上していません。

③ 流動比率は、平成28年度以降改善し、令和元年度で平均値を上回り、支払いに備えて現金等を十分に確保できています。

④ 企業債残高対給水収益比率については、企業債の発行を抑制していることから、平均値よりも大幅に低く、経営を圧迫する影響も少ないと考えられます。

⑤ 料金回収率は、100%を下回る低い数値となっているが、これは新型コロナ対策として、基本料金を減額したことによる減収分を繰入金で賄ったことによるものです。

⑥ 給水原価については、収益の減少とともに費用も減少したことから、昨年度とほぼ横ばいで推移しており、平均値も下回っています。

⑦ 施設利用率は、平均値を上回っており、適切な施設規模であると考えられます。

⑧ 有収率は、前年度よりも若干減少したものの平均値を上回っており、計画的に給配水管漏水調査を実施してきたことによるものと考えられます。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率については、平均値を下回っているものの、年々平均値に近づいており、老朽化が進んでいるものと考えられます。

② 管路経年化率は、平均値を上回っており、また前年度からの率の変化を比較すると、管路の老朽化が一層進んでいると考えられます。

③ 管路更新率については、計画的に更新を進めています。水道未復旧地域の解消や送水系統の二重化工事など、新設管布設を優先していることから、昨年度より低い数値となっています。

（管路経年化率は、左表では2.76%となっていますが、精査した結果、本来の値は24.72%となります。）

全体総括

経営の健全性・効率性に関する各指標に関して、類似団体平均値と比較すると、引き続き高い水準を維持していますが、老朽化の状況については、年々深刻さを増しています。

コロナ禍や人口減少により、収益が一層厳しくなることが想定され、また管路の更新速度を上げていくには多額の費用を要することから、現状の経営状態を維持することが今後難しくなると考えられます。

将来にわたって安定的に事業を継続していくために、今後も経営戦略に基づき経営の効率化を推進するとともに、管路更新計画に基づき、更新工事を進めていきます。